ITS分野におけるヒューマンインタフェースの国際標準化活動の概要

○伊藤 肇（矢崎総業）

Outline of ISO standard activities for human interface of ITS.
Hajime Ito (Yazaki Corporation)

1. はじめに

ITS(Intelligent Transport Systems)が急速に普及し始めるとともに、安全性の確保が大きな問題となってきた。ITS 自体の大目標として安全性や利便性向上が掲げられている一方で、新しい ITS 装置を見たり、操作したり、という作業が運転行動を阻害する可能性を否定できない。社会にてゆくためには、安全性に関する十分な検討が必要不可欠である。例えば、ITS 情報は簡素で理解しやすい形で提供すべきで、操作装置も走行中道路環境から目を離す時間を最小にして操作できるものでなくてはならない。また ITS に関わる装置を導入するにあたっては、安全性を確保するうえで標準化を図ることも重要な要件となる。カーメーカや国の違いによって表示の意味や操作の方式が異なっていると、不適切な運転操作の契機になりかねない。

ヒューマンインタフェースの検討は開発中のいろいろのシステムを考慮に入れる必要がある反面、現実には大部分の ITS システムは開発中もしくは計画中である。開発中のシステムの要件をできるだけ配慮するとともに、将来新しいシステムが登場したときにも通用

する標準でなければならない。

2. ITS ヒューマンインタフェースの国際標準化体制
ITS ヒューマンインタフェースの国際標準化は ISO/TC22/SC13/WG8 で行われている。現在この WG では 12 項目の標準化検討が行われ、一部はすでに DIS のレベルに達している。一方 ISO/TC204 では多くのシステム開発が行われているがヒューマンインタフェースを担当している ISO/TC204/WG13 が成果が出ないことを理由に閉会になっており、今後 WG8 での対応が必要である。本稿では現在ドラフト作成中のアイテムの紹介を行い、その問題点と明らかにする。

3. ITS ヒューマンインタフェースの国内標準化体制
ISO/TC204 HMI ビジネスチームおよび自動車技術会ヒューマンインタフェース分科会は、ISO の国際標準化の一端を担い、ISO/TC22/SC13 および ISO/TC204 の活動を通して ITS ヒューマンインタフェース標準化に取り組んでいる。続く 2 つの発表で複数の ITS システムがある場合の情報の優先順位の付け方および警告の訴え力というヒューマンインタフェース分科会が貢献している分野について報告する。

ISO/TC22/SC13/WG8 の Draft 概要と審議状況（優先度決定法を除く）

○渥美 文治（トヨタ自動車）

Outline and Situation of the Drafts of ISO/TC22/SC13/WG8 (except Priority Draft)
Bunji ATSUMI (TOYOTA Motor Corporation)

1. はじめに

ISO/TC22/SC13/WG8 では先に紹介した、日本提案の“優先順位”の他に多くの Draft が審議されている。ここではそれらの概要と審議状況について報告する。

2. 審議中の Draft

表 1 に審議中の主な Draft の一覧とその審議状況を示す。

3. 日本への影響

対話管理はドライバの負担を小さくするような、情報の与えかたの推奨値を提案するものであり、多くのシステムと関連が深く影響が大きい。

ナビゲーションシステムのヒューマンファクタは操作の走行規制に関するもので、正式な審議には至っていないが注意が必要。

表 1 主な審議中の Draft

Title	担当	ステータス
視覚情報表示 Part 1	イタリア	DIS
Part 2		PWI
聴覚情報表示 Part 1	フランス	CD
Part 2		PWI
運転視認測定法 Part 1	英国	CD
Part 2		PWI
対話管理 Part 1	スウェーデン	CD
Part 2		PWI
ITS表示の優先順位	日本	NP
運転中のTICSの適合性	英国	NP
ナビゲーションシステムのヒューマンファクタ	米国	PWI
ドライバー車システムのヒューマンファクタ	英国→米国	PWI